

文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

目的 東京文化財研究所で行われている調査研究に関する情報及び国内外の文化財に関するさまざまな情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、それらの情報の効果的な公開の手法に関する調査研究を行う。

成果 1. デジタル画像の形成方法の研究開発

ア) 運営費交付金や外部資金による他プロジェクトの一環として、東京文化財研究所内外において、東京国立博物館所蔵の平安仏画など、多数の文化財の光学的調査やガラス乾板からの画像取得を実施、一部については成果報告書を編纂した。また、調査研究の成果を論文や研究会等で発表した。

イ) 文化財アーカイブズ研究室と連携し光学調査に関するデジタルコンテンツ作成を実施した。また、『春日権現験記巻十九・巻二十 光学調査報告書』を2018(平成30)年12月14日付で刊行した。

2. 文化財情報に関する調査研究

文化財情報研究室で構築したウェブデータベースとその構築過程、及び運用についてまとめ、成果を論文や学会等で発表した。

3. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信

ア) 研究情報の発信の一環としてウェブサイトの運用を実施した。平成30年度は、2件のウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。また、メールマガジン、SNS (Facebook及びTwitter) を通じて、国内外の文化財関係者に対し活動報告や催事などウェブサイトの更新情報を中心に提供した。

イ) 2018(平成30)年6月30日付で『東京文化財研究所年報2017』を刊行した。編集にあたっては、各部・センターの年報部会員の協力を得た。

ウ) 研究成果を紹介するパネルをエントランスロビーにおいて展示した。平成30年度は文化財情報資料部による「文化財の光学的調査と記録の継承」と題した展示を実施した。

4. 調査研究及び研究成果発信のための文化財情報基盤の整備・充実

ア) ネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を実施、国立文化財機構内他施設の担当者と情報交換を行いセキュリティ水準の維持・向上に努めた。また、職員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、2回の「情報システム部会研修会」を開催した。なお、所内の情報基盤整備及びセキュリティ関連業務は、各部・センターの情報システム部会員と連携して実施している。

イ) 所内一所外間の情報の出入を制御するファイアウォール及びプロキシの機能を統合したセキュリティシステム、ネットワーク機器の動作記録(ログ)を管理するログサーバーを導入、無線LANアクセスポイント及びコントローラーを更新した。

ウェブサイトアクセスランキング

1	東京文化財研究所トップ	6	『保存科学』
2	ガラス乾板データベース	7	黒田清輝日記トップページ
3	『日本美術年鑑』所載物故者記事	8	黒田清輝日記(日付別)
4	書画家人名データベース	9	『美術画報』所載図版データベース
5	『日本美術年鑑』所載美術界年史彙報	10	年記資料集成

(平成30年度 上位10位まで)

ウェブサイトの主な更新履歴

年月日	更新内容	関係部局
18.4.5	デジタルブック版『未来につなぐ人類の技 16 近代文化遺産の保存理念と修復理念』、『未来につなぐ人類の技 17 煉瓦造建造物の保存と修復』公開	保存科学研究センター
18.4.10	Workshop on Conservation and Restoration of Urushi Objects 2018 参加者募集	文化遺産国際協力センター
18.4.16	シンポジウム「“ここ”の歴史へー幻のジェットエンジン、語るー」開催	保存科学研究センター
18.4.27	記録された日本美術史ー相見香雨、田中一松、土居次義の調査ノート展ー開催	文化財情報資料部
18.5.8	ゲッティ研究所副所長 キャスリーン・サロモン氏講演会報告書 公開	文化財情報資料部
18.5.15	明治大正期書画家番付データベース及び書画家人名データベース(明治大正期書画家番付による) 公開	文化財情報資料部
18.6.6	エントランスロビーパネル展示「文化財の光学的調査と記録の継承」	文化財情報資料部
18.6.7	第12回公開学術講座・第24回東京三味線・東京琴 展示・製作実演会 開催	無形文化遺産部
18.7.27	東京文化財研究所長の逝去	東京文化財研究所
18.9.14	デジタルブック版『未来につなぐ人類の技 18 鉄建造物の保存と修復』公開	保存科学研究センター
18.9.27	第52回オープンレクチャー かたちからの道、かたちへの道 開催	文化財情報資料部
18.9.27	平成30年度 文化財修復の現状と諸問題に関する研究会 開催	保存科学研究センター
18.10.15	イタリアの「1972年修復憲章」(論文・翻訳) ウェブ公開	保存科学研究センター
18.11.16	研究会「大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係」開催	文化遺産国際協力センター
18.12.20	国際研修「紙の保存と修復」2019 参加者募集	文化遺産国際協力センター
19.1.8	東京文化財研究所 新所長就任	東京文化財研究所
19.1.16	第二回無形文化遺産映像記録作成研究会 開催	無形文化遺産部
19.1.25	国際シンポジウム「台湾における近代化遺産活用の最前線」開催	保存科学研究センター

(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

論文・早川泰弘ほか：「春日権現験記絵の彩色材料調査（巻十九・巻二十）〈巻十九〉」『春日権現験記絵 巻十九・巻二十 光学調査報告書』東京文化財研究所 pp.XRF28-30 18.12 ほかに4件

発表・城野誠治：「光学的調査の方法と成果ー科学写真からわかること」那智参宮曼荼羅絵巻本の仕立てを探る 18.12.8

・小山田智寛ほか：「文化財情報の総合データベースシステムの構築と運用」デジタルアーカイブ学会第3回研究大会 19.3.15-16 ほかに5件

刊行物・『春日権現験記絵巻十九・巻二十 光学調査報告書』東京文化財研究所 18.12

研究組織 ○二神葉子、山梨絵美子、江村知子、塩谷純、小林公治、小林達朗、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、城野誠治、三島大暉、逢坂裕紀子、谷口每子、安岡みのり、丸山礼(以上、文化財情報資料部)

広報委員(情報システム部会)：佐野千絵(保存科学研究センター長)

各部署情報システム部会員：安達佳弘、大島大輔(以上、研究支援推進部)、小野真由美(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)、吉田直人、倉島玲央(以上、保存科学研究センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)

広報委員(年報部会)：山梨絵美子(副所長)

各部署年報部会員：安川政和、三本松俊徳(以上、研究支援推進部)、小林公治(文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部)、倉島玲央(保存科学研究センター)、友田正彦(文化遺産国際協力センター)

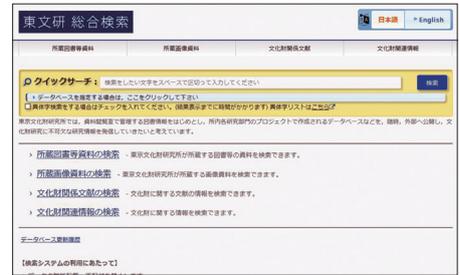
下記の通り。

- 4月24日(火) 田所泰(文化財情報資料部)「武村耕靄と明治期の女性日本画家について」
- 5月23日(水) 橘川英規(文化財情報資料部)「カリフォルニア大学ロサンゼルス校におけるアーカイブズの収受・保存・提供—ヨシダ・ヨシエ文庫を例に」
- 6月26日(火) 小野真由美(文化財情報資料部)「土佐光起著『本朝画法大伝』考一「画具製法并染法極秘伝」を端緒として—」コメンテーター：下原美保(鹿児島大学)
- 7月30日(月)「ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する研究会」
二神葉子(文化財情報資料部)「ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する調査研究の概要」
高桑いづみ(特任研究員)・長井尚子(中央大学)「ワット・ラーチャプラディットの漆絵に見られる楽器等のモチーフ」
薬師寺君子(昭和薬科大学)「ワット・ラーチャプラディットの漆絵に見る故事人物図について」
城野誠治(文化財情報資料部)「ワット・ラーチャプラディットの扉部材の撮影」
犬塚将英(保存科学研究センター)「X線透過撮影によるワット・ラーチャプラディットの扉部材の構造調査」
本多貴之(明治大学)「ワット・ラーチャプラディットの扉部材の分析」
早川泰弘(保存科学研究センター)「ワット・ラーチャプラディット漆絵・螺鈿扉の蛍光X線分析結果」
増淵麻里耶(文化遺産国際協力センター)「ワット・ナンチャー及びワット・ラーチャプラディットの漆絵・螺鈿扉の蛍光X線分析結果」
山下好彦(漆工品保存修復専門家)「江戸時代後期の薄貝螺鈿技法に関する考察—ワット・ラーチャプラディット寺院螺鈿扉と輸出漆器」
勝盛典子(中之島香雪美術館)「伏彩色螺鈿再考—技法と史的資料から」
討議 コメンテーター：永島明子(京都国立博物館)
- 10月 2日(火) 神谷嘉美(金沢大学)「平時絵技法で用いられる金属材料の形状について—南蛮漆器作例を中心に—」コメンテーター：室瀬和美(漆工家)
- 11月27日(火) 京都絵美(東京藝術大学)「絹本著色技法の史的展開について—仁和寺所蔵孔雀明王像をめぐる一考察」
- 12月26日(水) 山本聡美(共立女子大学)「病苦図像の源流—静嘉堂文庫蔵「妙法蓮華経变相図」について」
相澤正彦(成城大学文学部)「静嘉堂文庫美術館本「春日曼荼羅」と高階画系」
- 1月29日(火) 江村知子(文化財情報資料部)「田中一松の眼と手—田中一松資料、鶴岡在住期の資料および絵画作品調書を中心に」
多田羅多起子(京都造形芸術大学)「近代京都画壇における世代交代のきざし—土居次義氏旧蔵資料を起点に—」
- 2月28日(木) 米沢玲(文化財情報資料部)「二幅の不動明王画像」
- 3月26日(火) 谷古宇尚(北海道大学)「サハリンと千島列島の美術」

文化財情報資料部

東文研 総合検索(シ05の一環として実施)

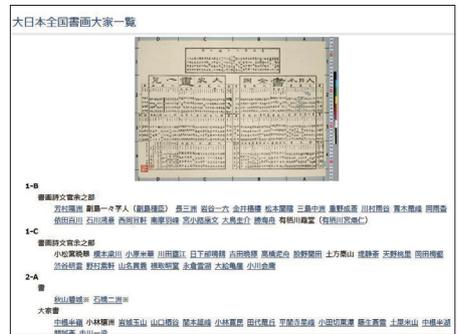
東京文化財研究所が所蔵する図書や雑誌、展覧会カタログ、画像等の資料、東京文化財研究所の定期刊行物、国内外の美術関係文献等について、メタデータを横断的に検索することが可能なウェブデータベースで、デジタルデータを公開する「研究資料データベース」も含め、28件のデータベース、約126万件のデータを検索対象とする。検索画面は日英両言語に対応している。当研究所の定期刊行物については、本文のPDFデータを閲覧することも可能である。なお、日本国外における美術展覧会・映画祭開催情報、及び日本国外で出版された書籍情報に関しては、英国セインズベリー日本藝術研究所が採録した情報を受け入れている。



文化財情報資料部

研究資料データベース(シ05の一環として実施)

東京文化財研究所が作成、収集した研究資料の画像データやテキストデータを検索・閲覧することができるウェブデータベース。現在、18件のデータベース、9万件弱のデータを公開しており、すべてのデータベースを横断的に検索可能で、一部を除き「東文研 総合検索」からの横断検索にも対応している。平成30年度には、明治大正期に刊行された書画家番付61点を対象に、そのデジタル画像を取得し、番付の名称及び所載の人名による検索を可能とした「明治大正期書画家番付データベース」、及び同データベース所載の人名を一覧化し、各番付での分類を示した「書画家人名データベース(明治大正期書画家番付による)」の2件を追加した。www.tobunken.go.jp/materials/



文化財情報資料部

2-(4)-②-1)

平成29年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』(シ07)

日本美術年鑑

2017

東京文化財研究所

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。文化財情報資料部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936(昭和11)年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成29年版は、B5判、566ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

『美術研究』

1932(昭和7)年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文、研究ノート、書評、展覧会評、研究資料・図版解説等を掲載している。本年度は425号、426号、427号を刊行した。出版に際して、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

美術研究